

平成26年度 滋賀県立高等学校入学者選抜の概要

- 平成26年度滋賀県立高等学校入学者選抜において、推薦選抜実施校は、全日制課程の36校39学科、定時制課程の1校1学科、特色選抜実施校は、全日制課程の12校15学科であった。
推薦選抜、特色選抜合わせて6,215人が出願し、3,343人が入学許可予定者となった。
- 一般選抜は、学力検査の受検倍率が1.11倍であった。また、出願変更率は7.5%であった。

※ 以下 () は前年度

<推薦選抜>

1 出願状況			
募集枠	2,563人		
出願者数	2,698人	出願倍率	1.05倍 (1.05倍)
2 受検状況および入学許可予定者			
受検者数	2,698人		
入学許可予定者数	2,319人	合格率	86.0% (85.2%)

<特色選抜>

1 出願状況			
募集枠	1,024人		
出願者数	3,517人	出願倍率	3.43倍 (3.65倍)
2 受検状況および入学許可予定者			
受検者数	3,514人		
入学許可予定者数	1,024人	合格率	29.1% (27.4%)

<一般選抜・学力検査>

1 出願状況			
出願者数	8,321人 (8,261人)		
確定出願者数	8,243人 (8,224人)		
確定出願倍率	全日制 1.13倍 (1.14倍)	定時制	0.83倍 (0.63倍)
	全・定合わせて1.12倍 (1.12倍)		
2 出願変更状況			
出願変更者数	620人	このうち78人は出願辞退者	
出願変更率	7.5% (7.7%)		
	(1) 学科別出願変更率では家庭学科が11.8%と最も高かった。(前年度は農業学科の13.8%)		
	(2) 学校出願を除く普通科の出願変更者数 369人 出願変更率 7.1% (7.2%)		
3 受検状況			
受検者数	8,218人	受検倍率	1.11倍 (1.11倍)
全日制	7,989人	1.13倍 (1.13倍)	定時制 229人 0.82倍 (0.60倍)
4 入学許可予定者			
(1) 学力検査による入学許可予定者数	7,256人	合格率	88.3% (86.9%)
(2) 入学許可予定者数が募集定員に満たなかった学校および科	10校11科	(18校21科)	

<二次選抜>

1 二次選抜募集の学校・科および募集定員			
全日制	6校7科55人	定時制	4校4科66人
	全・定合わせて10校11科121人		
2 出願状況	出願者数 117人	出願倍率	0.97倍 (0.64倍)
3 受検状況	受検者数 112人	受検倍率	0.93倍 (0.63倍)
4 入学許可予定者	入学許可予定者数 74人	合格率	66.1% (82.7%)

<入学許可予定者総数および実入学者数>

1 入学許可予定者総数	10,673人
2 実入学者数	10,663人
3 定員充足率	99.5% (98.9%)

平成26年度

滋賀県立高等学校入学者選抜結果のまとめ
(全日制・定時制・通信制)

滋 賀 県 教 育 委 員 会

[全日制の課程および定時制の課程]

1 募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

この冊子は、平成26年度県立高等学校入学者選抜の結果についてまとめたものである。

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について、中高一貫教育に係る人数は除いている。

(1) 推薦選抜、特色選抜の結果

表1は推薦選抜、特色選抜の出願者数、入学許可予定者数等を示したものである。

推薦選抜実施校は、全日制課程の36校39学科（普通科20、専門学科12、総合学科7）、定時制課程の1校1学科（普通科1）であった。特色選抜実施校は、昨年度と同様の12校15学科（普通科12、専門学科3）であった。選抜は、いずれも2月6日に実施した。

推薦選抜出願者の中学校別内訳は、県内の中学校106校中100校（昨年度106校中101校）、特別支援学校中学部13校中1校（昨年度13校中1校）、県外の中学校は47校（昨年度20校）であった。全日制の出願者数は、普通科で1,149人（昨年度1,091人）、農業学科で229人（昨年度238人）、工業学科で339人（昨年度388人）、商業学科で338人（昨年度369人）、家庭学科で113人（昨年度90人）、体育学科で53人（昨年度44人）、美術学科で48人（昨年度37人）、総合学科で429人（昨年度379人）であった。定時制課程への出願は、なかった。この結果、出願者数合計は、2,698人（昨年度2,658人）となり、出願倍率（募集枠に対する出願者の割合）は、推薦を実施した全日制の普通科では1.04倍（昨年度1.02倍）、専門学科で1.14倍（昨年度1.15倍）、総合学科では0.91倍（昨年度0.91倍）となり、実施学科全体では1.05倍（昨年度1.05倍）であった。この結果、2,319人が入学許可予定者となり、合格率は86.0%（昨年度85.2%）であった。

一方、特色選抜出願者の中学校別内訳は県内の中学校106校中102校（昨年度106校中102校）、県外の中学校は21校（昨年度18校）であった。出願者数は、普通科で3,407人（昨年度3,385人）、理数学科で83人（昨年度88人）、音楽学科で27人（昨年度35人）であった。この結果、出願者数合計は3,517人（昨年度3,508人）となり、出願倍率は、特色選抜を実施した普通科では3.53倍（昨年度3.76倍）、専門学科では1.83倍（昨年度2.05倍）となり、実施学科全体では3.43倍（昨年度3.65倍）であった。この結果、1,024人が入学許可予定者となり、合格率は29.1%（昨年度27.4%）であった。

結果、推薦選抜、特色選抜合わせて3,343人が入学許可予定者となり、合格率は53.8%（昨年度52.3%）であった。

表1 推薦選抜、特色選抜出願者数・入学許可予定者数等

学科	項目	募集定員 A	募集枠		出願者 数 B	受検者 数 B'	出願倍 率 B/A'	入学許可 予定者数C	合格率 C/B' (%)	
			%	人数A'						
推 薦 選 抜	普通科	3,920	15~30	1,114	1,149	1,149	1.03	1,030	89.6	
	専 門 学 科	農業	440	50	220	229	229	1.04	204	89.1
		工業	760	50	380	339	339	0.89	299	88.2
		商業	520	50	260	338	338	1.30	260	76.9
		家庭	160	35~40	60	113	113	1.88	55	48.7
		体育	40	75	30	53	53	1.77	30	56.6
		美術	40	75	30	48	48	1.60	30	62.5
	小計	1,960		980	1,120	1,120	1.14	878	78.4	
	総合学科	1,200	※30~40	469	429	429	0.91	411	95.8	
合計	7,080		2,563	2,698	2,698	1.05	2,319	86.0		
特 色 選 抜	普通科	3,280	25~30	964	3,407	3,404	3.53	964	28.3	
	専 門	理数	80	50	40	83	83	2.08	40	48.2
		音楽	40	50	20	27	27	1.35	20	74.1
	小計	120		60	110	110	1.83	60	54.5	
合計	3,400		1,024	3,517	3,514	3.43	1,024	29.1		
総 合 計	10,480		3,587	6,215	6,212	1.73	3,343	53.8		

※音楽高校総合学科の推薦選抜募集枠には、40%の他に全国募集枠を含む（上限5名）。

(2) 一般選抜の結果

3月5日に実施した一般選抜は、学力検査定員7,377人に対し、確定出願者数は8,243人であり、確定出願倍率は1.12倍であった。この結果、7,256人が入学許可予定者となり、合格率は88.3%であった。

3月18日に実施した二次選抜は、二次選抜定員121人に対し、受検者数は112人であった。この結果、74人が入学許可予定者となり、合格率は66.1%であった。

表2 一般選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目		年度	
		平成26年度	平成25年度
学力検査	学力検査定員 A	7,377	7,336
	出願者数	8,321	8,261
	確定出願者数 (倍率)	8,243 (1.12)	8,224 (1.12)
	受検者数 B (倍率)	8,218 (1.11)	8,173 (1.11)
	不合格者数	962	1,074
	入学許可予定者数 C	7,256	7,099
	合格率 C/B (%)	88.3	86.9
二次選抜	二次選抜定員 A-C	121	237
	出願者数	117	151
	受検者数 D (倍率)	112 (0.93)	150 (0.63)
	不合格者数	38	26
	入学許可予定者数 E	74	124
	合格率 E/D (%)	66.1	82.7
入学許可予定者数合計 C+E		7,330	7,223

(3) 入学者選抜の結果

3月12日に発表した県立高等学校全日制および定時制の課程の入学許可予定者数は10,599人であり、その内、推薦選抜による者は2,319人、特色選抜による者は1,024人、一般選抜による入学許可予定者数は7,256人であった。また、3月20日に発表した二次選抜による入学許可予定者数は74人であり、県立高等学校全日制および定時制の入学許可予定者を合わせて10,673人となった。そのうち、全日制では募集定員10,440人に対して入学許可予定者数10,424人となった。

4月8日における県立高等学校全日制および定時制の課程の実入学者数は10,663人で、募集定員の99.5%（昨年度98.9%）となった。

表3 入学許可予定者数等

項目		年度			平成25年度
		平成26年度			
		全日制	定時制	合計	
※県内中学校卒業予定者数				14,690	14,448
募集定員 A		10,440	280	10,720	10,560
推薦選抜入学許可予定者数		2,319	0	2,319	2,264
特色選抜入学許可予定者数		1,024	-	1,024	960
一般選抜入学許可予定者数		7,042	214	7,256	7,099
二次選抜入学許可予定者数		39	35	74	124
総計	入学許可予定者総数	10,424	249	10,673	10,447
	実入学者数 B			10,663	10,441
	定員充足率 B/A (%)			99.5	98.9

※県内中学校卒業生数は各年度1月15日学校支援課調査による。

2 学科別の受検者数、入学許可予定者数等について

県立高等学校全日制および定時制の課程を合わせて学科別にみると表4のようになり、実入学者数が募集定員を下回ったのは、普通科をはじめ工業学科、音楽学科、総合学科の4学科（昨年度4学科）であった。

表4 学科別の受検者・入学許可予定者数等

項目		学科	普通	農業	工業	商業	家庭	理数	体育	音楽	美術	総合	
募集定員 A		10,720	7,320	440	840	520	160	80	40	40	40	1,240	
推薦 選 抜	募集枠（人数）	2,563	1,114	220	380	260	60	---	30	---	30	469	
	受検者数 B	2,698	1,149	229	339	338	113	---	53	---	48	429	
	入学許可予定者数 C	2,319	1,030	204	299	260	55	---	30	---	30	411	
	合格率 C/B(%)	86.0	89.6	89.1	88.2	76.9	48.7	---	56.6	---	62.5	95.8	
特色 選 抜	募集枠（人数）	1,024	964	---	---	---	---	40	---	20	---	---	
	受検者数 D	3,514	3,404	---	---	---	---	83	---	27	---	---	
	入学許可予定者数 E	1,024	964	---	---	---	---	40	---	20	---	---	
	合格率 E/D(%)	29.1	28.3	---	---	---	---	48.2	---	74.1	---	---	
一 般 選 抜	学 力 検 査	学力検査定員 A-(C+E)	7,377	5,326	236	541	260	105	40	10	20	10	829
		確定出願者数	8,243	*5,140	278	517	297	140	**	**	11	**	846
		受検者数 F	8,218	*5,123	277	516	295	140	**	**	11	**	842
		入学許可予定者数 G	7,256	5,285	236	502	260	105	40	10	11	10	797
		合格率 G/F(%)	88.3	***	85.2	97.3	88.1	75.0	***	***	100	***	94.7
	二 次 選 抜	二次選抜定員 A-(C+E)-G	121	41	---	39	---	---	---	---	9	---	32
		出願者数	117	72	---	38	---	---	---	---	0	---	7
		受検者数 H	112	68	---	37	---	---	---	---	---	---	7
		入学許可予定者数 I	74	40	---	27	---	---	---	---	---	---	7
		合格率 I/H(%)	66.1	58.8	---	73.0	---	---	---	---	---	---	100
総 計	入学許可予定者	10,673	7,319	440	828	520	160	80	40	31	40	1,215	
	実入学者数 J	10,663	7,315	440	826	520	160	80	40	31	40	1,211	
	過不足 J-A	-57	-5	0	-14	0	0	0	0	-9	0	-29	
	定員充足率(%)	99.5	99.9	100	98.3	100	100	100	100	77.5	100	97.7	
前年度定員充足率(%)		98.9	99.4	100	94.3	97.0	100	100	100	92.5	100	100	

* 学校出願の数を除いた数。学校出願の数は、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

** 学校出願のため、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

*** 学校出願のため、学科ごとの合格率は算出できない。

別表 学校出願

項目		学科	普通	理数	普通	体育	普通	美術
一 般 選 抜	学 力 検 査	学力検査定員 A-(C+E)	420	40	224	10	140	10
		確定出願者数	576		276		162	
		受検者数 D	576		276		162	
		入学許可予定者数 E	420	40	224	10	140	10

3 学力検査における出願変更者数について

表5は、学科別の出願者数および出願変更者数等を示したものである。

出願者数8,321人に対し、出願変更者数は620人（昨年度632人）、出願変更率は7.5%（昨年度7.7%）となり、確定出願者数は8,243人であった。

各学科別の出願変更率は、家庭学科の11.8%が最も高く（昨年度の最高は農業学科が13.8%）、次に、農業学科の10.2%であった。

表5 学科別の出願変更者数

(昨年度)

項目		学力検査 定員	出願 者数 A	出願変更者数 B (第1志望を 取り下げた数)	出願 変更率 B/A(%)	確定出願 者数 C	出願 変更 者数	出願 変更 率(%)
* 普通		4,542	5,161	369	7.1	5,140	357	7.2
農業		236	293	30	10.2	278	39	13.8
工業		541	490	31	6.3	517	61	9.7
商業		260	295	24	8.1	297	32	9.4
家庭		105	152	18	11.8	140	3	2.4
音楽		20	12	1	8.3	11	0	0.0
福祉		—	—	—	—	—	1	4.8
総合		829	872	62	7.1	846	48	6.3
学校 出願	普通・理数	460	608	48	7.9	576	40	6.4
	普通・体育	234	270	20	7.4	276	44	12.4
	普通・美術	150	168	17	10.1	162	7	4.6
合計		7,377	8,321	620	7.5	8,243	632	7.7

* 普通科は学校出願を除く

4 学力検査における面接・作文・実技検査について

点数化する面接を実施した学校は全日制の課程では、愛知高等学校、湖南農業高等学校、八日市南高等学校の3校7科であった。定時制の課程では、昨年度と同様で、大津清陵高等学校の昼間、夜間が実施した。

また、受検生の関心・意欲をみるための点数化しない面接を実施した高等学校は、全日制の課程では、甲南高等学校のみ（昨年度2校4科）であった。

実技検査を実施した学校は、草津東高等学校（体育科）、栗東高等学校（美術科）の2校2科であり、昨年度と同様であった。

なお、作文については実施校はなかった。

5 学力検査について

(1) 出題の方針等

各教科の学力検査問題は、平成15年度入学者選抜から全日制と定時制の課程が同一日程での実施となっており、本年度も同一問題で実施した。中学校学習指導要領に示された内容に基づき、単なる知識量をみるのではなく、学校で学んだ知識を基礎に、思考力・判断力・表現力をみるための設問を多くするなど、工夫を凝らして問題の作成に当たった。

国語では、様々な種類の文章を素材にして、内容を的確に読み取る力、考えを適切に書き表す力、言語事項に関する力をみることをねらいとした。

数学では、数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現し処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみることをねらいとした。

社会では、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して考察し、公正に判断する力や適切に表現する力をみることをねらいとした。

理科では、身のまわりの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然のしくみやはたらきについて科学的に探究する力をみることをねらいとした。なお、中学校の新学習指導要領への移行に伴い、先行実施分からも出題した。

英語では、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を理解し、自分の考えを英語で表現するなどのコミュニケーション能力をみることをねらいとした。

(2) 配点等

配点は、各検査教科100点満点を標準とし、5教科で500点満点とした。また、記述式の問題等では、学校の状況に応じて部分点を与えるなど、採点に幅を持たせた。

学力検査実施教科の配点に比重をかける傾斜配点は、膳所高等学校理数科で数学と理科の配点を120点満点（5教科合計で540点満点）で実施した。

(3) 検査成績

総合得点については、傾斜配点や面接を実施した学校があり、学校ごとに満点値が異なるため、全体としてのまとめは行わなかった。

各検査教科ごとの受検者の平均点は国語54.2点、数学45.0点、社会43.5点、理科44.6点、英語41.1点であった。

[単位制 転・編入学、通信制の課程]

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

単位制の課程の昼間部で実施した転・編入学については、31人（昨年度36人）の出願者（受検者31人）があり、定員40人に対し0.78倍（昨年度0.88倍）の倍率となり、31人が入学許可予定者となった。二次選抜では、1人が入学許可予定者となり、合計32人が入学許可予定者となった。

また、通信制の課程については、定員320人のところ一次選抜では、151人の出願者（昨年度176人）に対して、151人（昨年度176人）が入学許可予定者となった。また、二次選抜では、42人（昨年度46人）が入学許可予定者となり、合計193人（昨年度222人）が入学許可予定者となった。

表6 募集定員、志願者数、入学許可予定者数等

年度	項目	一次選抜				辞退者 D	二次選抜		合計	
		募集定員 A	出願者数 B	入学許可 予定者数 C	率 C/A		出願者数	入学許可 予定者数 E	入学許可 予定者数 F=C-D+E	募集定員 との差 F-A
平成 26 年度	単位制 転 編 入	40	31	31	0.78	0	1	1	32	-8
	通信制	320	151	151	0.47	0	42	42	193	-127
平成 25 年度	単位制 転 編 入	40	36	35	0.88	0	5	5	40	0
	通信制	320	176	176	0.55	0	46	46	222	-98

1 出題方針

中学校学習指導要領（国語）に示された内容に基づき、国語を適切に表現し正確に理解する基礎的な力をみるようにした。

また、様々な種類の文章を素材にして、内容を的確に読み取る力、考えを適切に書き表す力、言語事項に関する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題文章については、「素材文は格調高く、現代思潮を見据えた高度な内容だった。論理的思考力が高次元で試される良問だった。」「創造する人間の特性をわかりやすくまとめた適切な文章であった。」「受検生の前向きさと呼び起こす内容で、良い文章だと思われる。」などの意見があった。

設問については、「複数の解答要素を本文全体を見渡して見つける問いであったため、全体を通しての理解力を問う良問であった。」「各分野をまんべんなく問うており、分量も適当である。」「表現や文法に関する問題や、韻文を使ったものがあり、工夫が見られた。」という意見や、作文に関して「受検生にとって身近な題材で条件も適切で書きやすい良問である。」「身近な題材を取り上げ、受検生の考えを表現させている良問であった。」「根拠とともに自身の意見を書かせるという点がよかった。」などの意見があった。

3 解答の分析

□において、漢字の問いについては「伴（う）」の読みの正答率が若干低いこと以外は良好であった。言葉のきまりや表現の仕方に注意して読む力を問う問題も良好であった。内容や要旨を的確にとらえる力を問う問題も概ね良好であったが、筆者の考えを要約して書きまとめる力を問う問題では、正答率が低かった。今後は、読み取った内容を的確にまとめて表現する力を身につけさせる必要がある。

□の作文では、三つの案から選んだものの良さについて説明することを通して、自分の考えをまとめ、根拠を明確にして適切に表現する力を求めた。根拠を明確にして、自分の考えを論理的に表現する力のさらなる育成が望まれる。

□において、漢字の問いは良好な正答率であった。論理の展開を確かめながら要旨をとらえる問題についても概ね良好であったが、筆者が引用した理由を考え説明する力を問う問題や、文章全体の要旨をとらえ、自分でまとめて記述して答える問いの正答率は低かった。今後も、筆者の考えを正しくとらえ、指示にしたがう字数内で要約する力のさらなる育成が求められる。

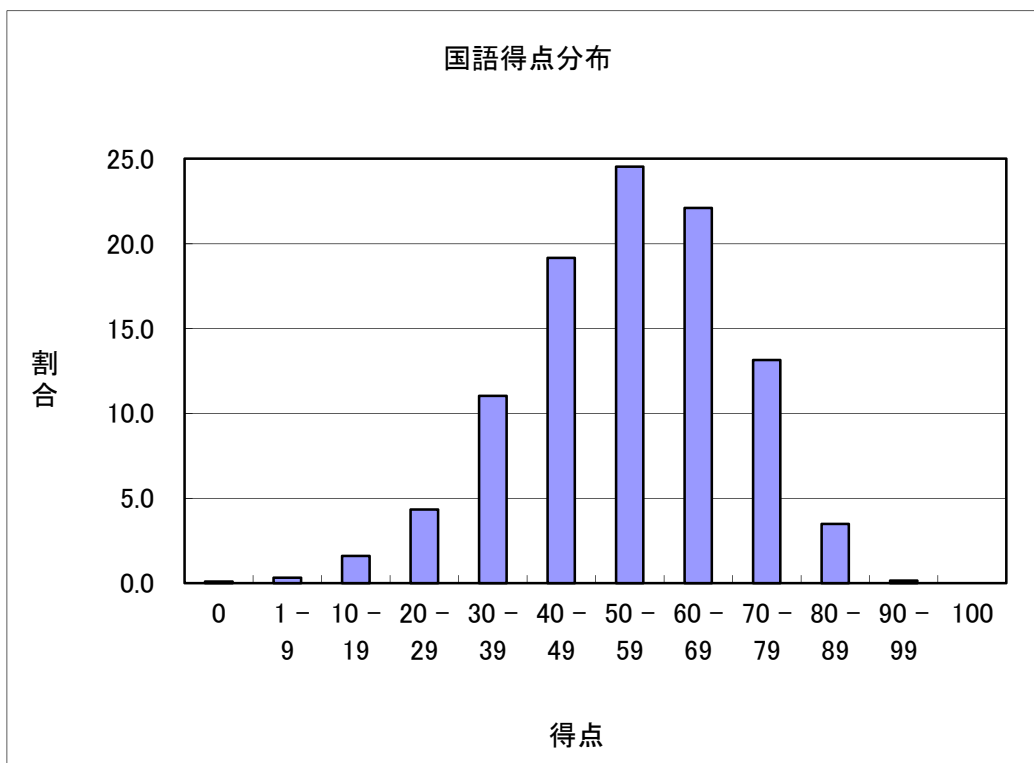
全体として、文章を正確に読み取り、書かれた内容の大体の意味を理解する力についてはおおむね身につけている。しかし、自分が理解した内容をもとに、根拠を明確にして簡潔にまとめ、指示された条件にしたがって適切に書き表す力については十分に身につけているとは言えない。今後も文章に親しむ態度の育成を一層進めるとともに、思考力、判断力、表現力を育む言語活動を充実させ、資料などを活用して話し合い、自分の意見をまとめ発表させることなどを通じて、表現する力のさらなる育成を図ってゆくことが望まれる。

国 語

問 題 区 分			正 答 率 (%)
一	1	①	90.5
		②	88.2
		③	77.2
		④	87.0
		⑤	54.3
	2		76.8
	3		40.0
	4		63.8
	5		58.4
	6		5.6
	二		

問 題 区 分			正 答 率 (%)
三	1	①	97.3
		②	89.9
		③	84.7
		④	94.4
		⑤	93.8
	2		40.2
	3		15.2
	4		50.2
	5		33.4
	6		9.5

年 度	平 均 点	標 準 偏 差
平26 (100点満点)	54.2	15.7



1 出題方針

中学校学習指導要領（数学）および特例により定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、数学的な見方や考え方をみるようにした。

また、数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現し処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「各設問に基礎・基本を問う小問も含まれており、受検生にも取り組みやすい。」「全体として、日常的な感覚で取り組めるドミノや折り紙、ジョギングの問題で、受検生としては、スムーズに問題に入っていたと思う。」「**2**、**3**も問題文が簡素なため、じっくりと取り組む時間が保障されている。」などの意見が寄せられた。

各設問について、「ドミノがぴったりとつくと同様な三角形が向きをかえてできるのが面白い。」「記述により解答する問いが2か所あったが、難易度は適当であり、事象を想像する力と必要な条件を読み取る力が問われた。」「グラフから傾き（速さ）を求めたり、グラフを利用して、2人の位置関係を調べたりと工夫のある問題である。」などの意見があった。

3 解答の分析

1の数と式の計算、方程式、関数の基礎的・基本的な問題については正答率が比較的高く、よく理解できていた。合同な三角形を見だし、対応する線分の長さを求める問題では、正答率が低かった。与えられた条件をもとに、図形の性質を見だし説明する力の育成が望まれる。

2は、正方形の紙を折ってできる図形をもとに、三角形の合同、円周角の定理の逆、三平方の定理などを用いて、平面図形の性質について、考察する力や数学的に処理する力をみる内容であったが、円周角の定理の逆を根拠に説明したり、三平方の定理を用いて面積を求めたりする問題では正答率が低かった。平面図形において、根拠となる図形の性質を明らかにしながら筋道を立てて説明したり、補助線を活用したり、見通しをもって論理的に考察し表現する力の育成が求められる。

3は、円形のジョギングコースで、2人が移動するときの時間と道のりについて、グラフや式を用いて考察し、数学的に表現し処理する力をみる内容であったが、2人が同時にコース上の同じ位置にくることがないように時間の範囲を定める問題は正答率が低かった。問題文を読み、与えられた条件をグラフから読みとるなど、グラフを活用して、数理的に考察する力の育成が望まれる。

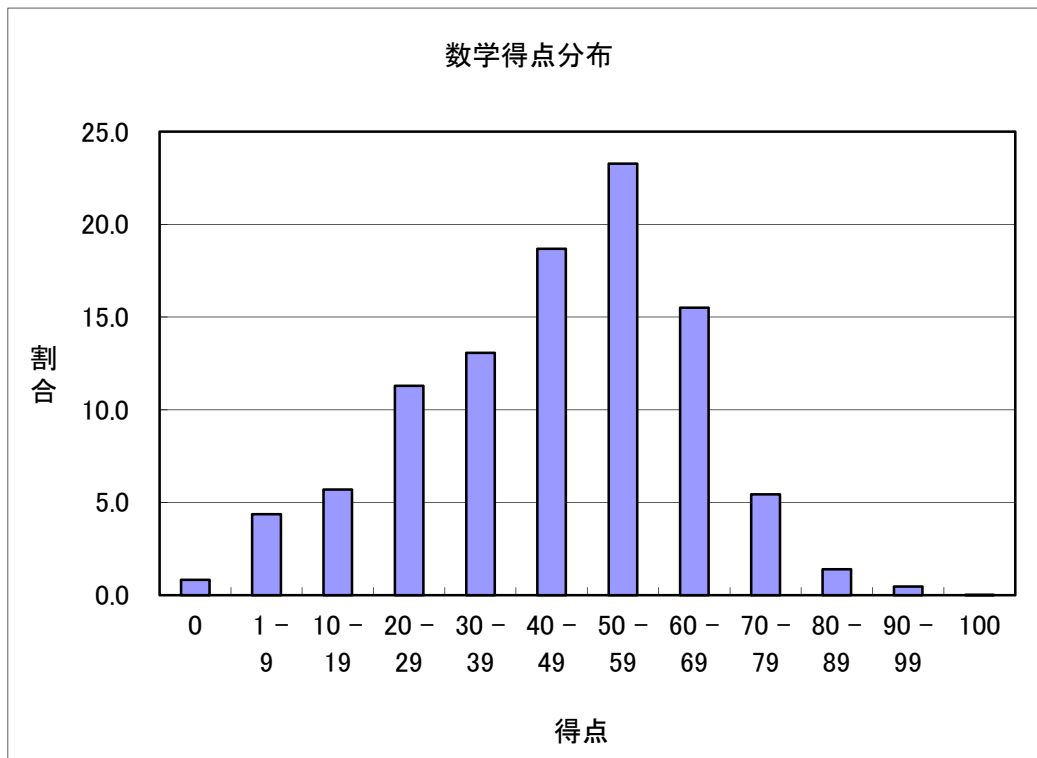
全体として、数や式の計算、方程式、関数等の基礎的・基本的な事項や概念についてはおおむね理解できているといえる。今後は、断片的な理解や知識の習得にとどまることなく、課題解決することを通して数学の各領域の内容を関連付けて活用する力を高めるとともに、言葉、数、式、図、表、グラフを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動を積極的に取り入れながら、数学的な思考力・判断力・表現力を育成することが望まれる。

数 学

問題区分		正答率 (%)
①	(1)	① 96.1
		② 85.2
		③ 85.4
		④ 81.1
		⑤ 79.9
	(2) 62.9	
	(3) 54.8	
	(4) 22.7	
	(5)	① 36.9
		② 16.8

問題区分		正答率 (%)
②	(1) 35.7	
	(2) 1.1	
	(3) 5.2	
③	(1) 60.3	
	(2)	① 9.3
		② 2.0

年 度	平 均 点	標 準 偏 差
平26 (100点満点)	45.0	19.0



1 出題方針

中学校学習指導要領（社会）に示された内容に基づき、地理、歴史、公民の三分野について、基礎的・基本的事項の理解をみるとともに、多面的・多角的に考察する力をみるようにした。

また、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して考察し、公正に判断する力や適切に表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

「地理、歴史、公民の三分野についてバランスよく出題されており、基本的なことから、地図、資料、年表などを活用して、多角的な考え方を見ることができる良問である。」「知識理解にとどまらず、技能や思考・判断・表現などの多様な観点からの問いかけがみられた。」「地理的分野では、気候と農業と市場を関連させ、考えさせる良問である。」「地理と世界史を組み合わせ、マゼランの偉業を世界地図から読み取る問題はよかった。」「歴史的分野は、日本の発展過程や歴史をグローバルな観点から考察させる良い問題といえる」「公民的分野は、身近な社会事象に基づく資料を提示することによって、国民の生活や国の役割、国民としてのあり方についての理解を多角的にとらえさせる良問であった。」などの意見があった。

3 解答の分析

①は、地図やグラフなどをもとに、日本の地域的特色や世界の地域構成についての理解と地形図の読み取りなどの技能をみるとともに、都道府県や主な国々の特色について、考察し判断する力や適切に表現する力をみる問題であった。基礎的・基本的な事項の理解は正答率が高く、おおむねできているといえるが、分野を関連させて学習することに課題が見られた。さらに、適切に表現する問題では正答率が低く、生徒が説明する活動や、資料から分かることを述べたり書いたりする活動をさらに充実させる必要がある。

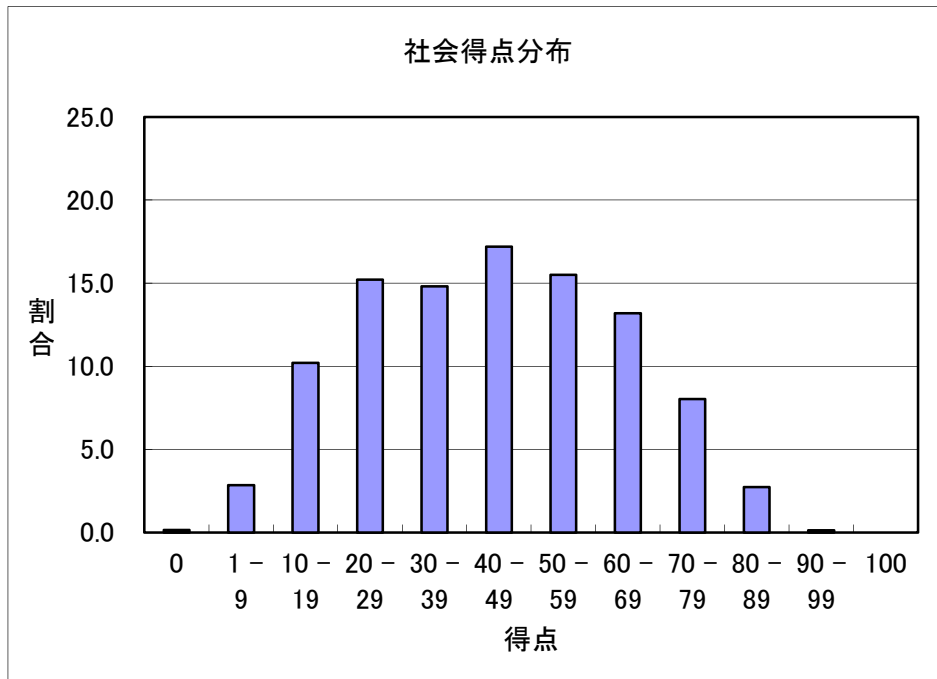
②は、図表やグラフなどをもとに、日本と外国のかかわりを通して、各時代の文化の特色などについての理解をみるとともに、世界の動きが我が国の社会に及ぼした影響を、考察し判断する力や適切に表現する力をみる問題であった。各時代の文化の特色についての理解をみる問題については正答率が高く、基礎的・基本的な事項の理解はおおむねできているといえる。しかし、問題をていねいに読み取り、資料と関連させて考察する問題や、目的や理由を説明する問題では正答率が低く、知識の理解だけでなく、背景や目的などについての総合的な理解と、適切に表現する力を育てていく必要がある。

③は、図表などをもとに、国民主権や国際社会における主権の尊重と市場経済についての理解をみるとともに、公共料金や財政政策など、国民の生活と国の役割について、考察し判断する力や表現する力をみる問題であった。基礎的・基本的事項の理解をみる問題では正答率が高いが、理由を説明させる問題では正答率が低い。身近な資料をていねいに扱い、身の周りのできごとに日頃から関心をもち、自らの生活との関連を考えさせるとともに、適切に表現する力を身につけられるような、社会参画をめざした指導が望まれる。

全体的に、地理、歴史、公民の各分野における基礎的・基本的事項についてはおおむね理解できている。今後は分野の内容を関連させながら、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、社会的事象を多面的・多角的に思考・判断して、表現する力を育成する指導が望まれる。

社 会

問 題 区 分			正答率 (%)	問 題 区 分			正答率 (%)	
①	1	(1)	55.3	②	2	(3)	45.1	
		(2)	①			34.9	(4)	12.8
			②		42.3	(5)	a	7.8
		(3)	31.5		b		10.2	
		(4)	17.1		(6)	16.5		
	2	(1)	81.8		③	1	(1)	あ
		(2)	60.6	い				57.3
		(3)	25.2	(2)			47.9	
		(4)	39.6	(3)		34.2		
		(5)	41.2	(2)		(1)	18.0	
16.9	(2)		19.0					
②	1	(1)	57.5	3	(1)	12.6		
		(2)	40.3		(2)	69.3		
		(3)	41.4		(3)	Ⅱ	9.9	
		(4)	8.9	Ⅲ		12.7		
	(1)	A	63.6	年 度		平均点	標準偏差	
		B	70.0	平 26(100点満点)		43.5	20.0	
		(2)	31.4					



1 出題方針

中学校学習指導要領（理科）および特例により定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえた、自然の事物・現象についての科学的な見方や考え方をみるようにした。

また、身のまわりの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然のしくみやはたらきについて科学的に探究する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

「身のまわりの事象についての実験、観察をもとに、中学校での基本的な学習事項を確認する工夫が見られた。」「科学的な思考を試す問題が多く、普段から論理的に考える力が求められている。」「各分野からバランスよく出題するよう配慮されており、文章で答えさせる問題では、自分の考えを表現する力をみるよう工夫されている。」などの意見があった。

3 解答の分析

①では、動物のからだのつくりに関する用語など、基本的な事項を問う問題については比較的正答率が高い。一方、進化の概念を用いて、ニワトリとヒトは、骨の形は異なるが骨格の基本的なつくりは似ていることを説明する問題では正答率が低い。生物についての基礎的・基本的な知識を基に、生物の間のつながりを時間的に見ることを通して進化の概念を育成することが望まれる。

②では、凸レンズのはたらきについての実験を行い、実像や虚像ができるときの像の位置や大きさ、像の向きについて問う問題など、レンズのはたらきに関する基本的な問題は正答率が高く、おおむね理解できているといえる。一方、2つのグラフからわかることを文章で表現したり、カメラなどレンズのはたらきを応用した機器に知識を適用して考察することなどの問題で正答率が低く、今後は実験結果を分析し、的確に表現する力の育成が求められる。

③では、地層の重なり方の規則性や地層の広がり方に関する基礎的な内容を問う問題については正答率が高く、おおむね理解できているといえる。しかし、地層の成因や生成の順序などを推定し、判断した根拠を述べる問題では正答率が低い。今後さらに野外観察や実験等の体験的な活動を多く取り入れ、その結果を考察して表現する能力を育成していくことが望まれる。

④では、マグネシウムが酸に溶けて水素が発生することやマグネシウム原子がイオンになることなど、酸と金属の反応に関する基本的な事項を問う問題については正答率が高い。一方、反応する物質や生成する物質の量を、データをもとに求めるなどの、化学反応における物質の量の関係を問う問題については正答率が低く、今後は、実験結果を分析し活用していく力の育成が求められる。

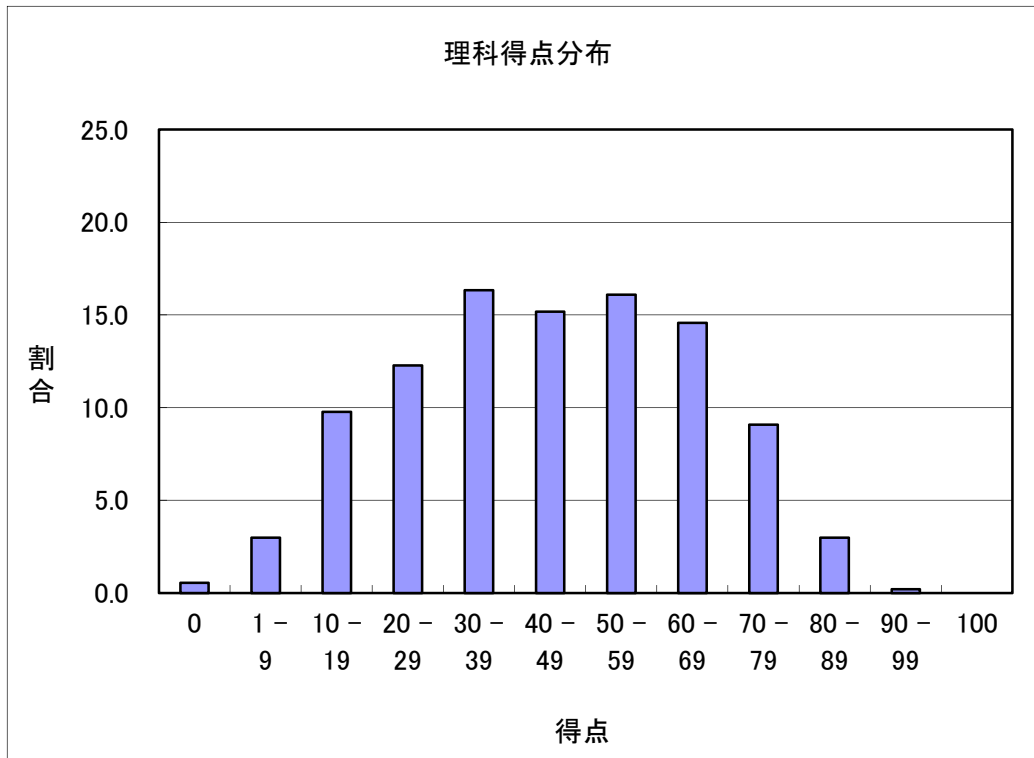
全体として、個々の基礎的・基本的な事柄や概念についてはおおむね理解できているといえる。しかし、事象を科学的に考察し認識する力、およびその考察や認識を的確に表現する力はやや弱いと考えられる。今後も自然や日常の中に見られる事象に対して興味・関心をもち、基礎的・基本的な知識をもとに科学的に探究し、考察したことを的確に表現できる能力の育成が求められる。

理 科

問題区分		正答率 (%)	
1	1	49.6	
	2	40.6	
	3	8.3	
	4	68.3	
	5	10.1	
2	1	42.6	
	2	48.8	
	3	5.5	
	4	44.7	
	5	記号	38.1
		計算	6.3

問題区分		正答率 (%)	
3	1	47.5	
	2	41.7	
	3	55.1	
	4	48.3	
	5	記号	47.6
		記述	16.6
4	1	39.0	
	2	48.7	
	3	45.7	
	4	25.9	
	5	39.5	

年 度	平均点	標準偏差
平26(100点満点)	44.6	20.5



1 出題方針

中学校学習指導要領（外国語）に示された内容に基づき、英語を理解し、英語で表現する基礎的な力をみるようにした。

また、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を理解し、自分の考えを英語で表現するなどのコミュニケーション能力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

「基本的な知識から思考力・判断力・表現力を問う問題であった。」「英語の理解力・表現力を見るためによく考えられた問題である。特に表現力を試す問題が増えていることは、中学生に学習の目標を示している。」「単に知識を問うだけでなく、内容を読み取り、状況に応じた解答を求めるなど、コミュニケーション能力、表現力を測ることができる問題であった。」「中学校学習指導要領に則り、4技能を統合的に活用できる力を試す問題で、難易度がバランスよく配置されていた。」などの意見があった。

また、本年度から聞き取りテストにCDを使用したのが、「音質が良く聞き取りやすかった。」「カセットテープからCDに変更したのは、妥当である。」などの意見があった。

3 解答の分析

①の聞き取り問題では、絵を見て答えを選ぶ問題の正答率や、初歩的な会話の流れや内容を聞き取る問題の正答率が高く、中学校の授業で英語を「聞く・話す」活動に積極的に取り組ませている成果が表れている。しかし、まとまった英文を聞いて、状況や場面を想像しながら、前後の流れから内容を理解したり、聞き取った内容や事実を英語で正しく表現したりする問題では正答率が低かった。日ごろから、相手が伝えようとする内容を聞き、それをもとにコミュニケーションを図るような活動を一層充実させることが望まれる。

②は、英語による中学生の発表を素材にして、発表者の伝えたいことなどを正確に読み取る力や、英語で意見を述べたり質問したりする力などをみる問題である。英文の一部を読んで、適切な語句等を答える問題では、比較的高い正答率であったが、英文の全体を読んだうえで、日本語や英語で表現する問題については正答率が低かった。日ごろから、英文のあらすじや大切な部分などを的確に読み取り、読んだ後に英文の内容や自分の意見、感想等を表現し合う活動をより計画的・系統的に行うことが望まれる。

③は、高校生と留学生の会話を素材にして、会話の大まかな流れや大切な部分を的確に読み取る力や、英語でまとめたり、表現したりする力をみる問題である。英語の基本的かつ運用度の高い表現や、会話の流れを把握しているかを選択肢等から選ぶ問題では、比較的高い正答率であったが、場面や状況に応じて適切に表現する力をみる問題の正答率は低かった。まとまりのある英文の内容を的確に読み取り、読み手としての感想や意見、賛否およびその理由を表現する活動をより一層充実させることが望まれる。

全体的には、初歩的な英語を聞いて話し手の意向を理解する力や、英文を読んで大まかな流れをつかむ力はあるが、大切な部分を聞き取る力や的確に読み取る力、また場面や状況に応じて適切に表現する力は十分に定着しているとは言えない。その改善のためには、英文を聞いたり読んだりした内容を理解するだけでなく、自分なりの感想や意見などを表現するコミュニケーション活動を一層充実させることが望まれる。

英 語

問題区分			正答率 (%)	
①	《その1》	1	82.9	
		2	68.8	
		3	69.6	
	《その2》	(A)	1	51.2
			2	48.3
		(B)	1	24.3
			2	30.2
	《その3》	1	18.6	
		2	4.8	
②	1		41.3	
	2		40.5	
	3		33.5	
	4		63.9	
	5		19.5	
	6		24.8	

問題区分			正答率 (%)
③	1	①	67.8
		②	68.9
	2		16.4
	3		23.1
	4		56.4
	5	1	41.5
		2	24.8
		3	30.9
		4	3.3
		5	34.0
	6		46.0
	7		14.4

年 度	平 均 点	標 準 偏 差
平26 (100点満点)	41.1	22.7

